

地質の日記念事業「琥珀採掘体験フェア」を 開催して

佐々木 和久¹⁾

1. はじめに

この度「地質の日」元年記念事業として久慈琥珀博物館は琥珀採掘体験フェアを開催させていただきました。この稿ではその結果をご紹介します。岩手県北部沿岸に位置する久慈市周辺は、国内に比類ない琥珀の大産地として古くから知られ、人々の利用は縄文時代に遡ります。採掘産業としては、江戸時代の初期に南部藩の財源として藩管理品目となり、琥珀の採掘・輸出・売買に運上金(一種の税金)が課せられた中でさらに盛んな琥珀採掘が行われ、採掘された琥珀の大半は江戸や京都に輸出され細工物や高級なお香として用いられていました。その後、長い歴史の中では盛衰も見られますが、今現在も地元企業の手で採掘され、主にアクセサリー類に加工生産されています。

2. フェアの開催

当館は近年の小中高の学校での総合学習や社会人の生涯学習ニーズの高まりに対応し、従来の屋内型体験教室のほかに隣接地での露天採掘法による琥珀採掘体験教室を6年前から開催し、当初は学習利用目的に主眼を置いていましたが、最近ではここだけの体験「宝探し教室」として観光利用でも好評を得る人気の体験メニューになっています。

今春「地質の日」元年の記念事業の募集を知り、当館は「琥珀採掘体験フェア」を企画し、4月26日～5月11日のゴールデンウィークを挟んだ期間で、通常は1時間の体験を各日5回開催させていただきました。事前の広告宣伝はもとよりですが、偶然にも4月中旬に「久慈産琥珀から日本最古のカマキリ化石を発見(新

種)」をプレス発表し、全国で話題になった直後からのフェア開催となり、結果、フェア期間の琥珀採掘体験教室への参加者は約900名に登り、昨年対比243%を記録しました。参加者は近隣地域をはじめ観光や帰省のお客様からなり、1回あたりの参加者定員数30名を超える事もしばしばで、いざお宝探しと意気込むお客様や親子連れのお客様も多く、「あった!」と琥珀発見の喚声が飛び交うのは良いのですが、採掘指導と事故防止にあたる側スタッフはとにかく大変でした。終えてみればフェア期間中事故も無く、多くのお客様には恐竜時代の悠久の大地の琥珀ロマンに触れていただいていたと楽しんでいただけたものと確信しています(写真1, 2)。

3. 相次ぐ発見

フェア期間終了後も琥珀採掘体験教室人気は全く衰えを見せていません。一度火が付いた流れからというだけではなく、4月下旬に琥珀採掘体験場からほ



写真1 琥珀採掘体験フェアの様子。

1) 久慈琥珀博物館
028-0071 岩手県久慈市小久慈町19-156-133

キーワード: 久慈市, 久慈琥珀博物館, 琥珀採掘体験フェア



写真2 琥珀採掘場から発見された約8,700万年前のカマキリ化石が封じ込められた琥珀(2008年4月プレス発表).



写真3 琥珀採掘体験場から発見された約8,500万年前のリクガメ類の化石(2008年7月プレス発表).

ほぼ完全な状態でリクガメ類の化石が発見されて、専門家の鑑定を経て6月下旬にプレス発表(新種)を行い、これまた全国で話題となり夏休み期間の子供たちやお盆の帰省客の引き水になりました。その後も専門家の鑑定結果待ちの動物化石が数点発見されていますので、来年に向けても話題には事欠かない状況にあると言えるでしょう(写真3)。

4. 現在の琥珀採掘

話はフェアから離れ、今現在の琥珀採掘の様子を併せてご紹介しておきたいと思います。

今現在、琥珀の商業採掘を稼動しているのは、日本全国で久慈市内の宇部地区と小久慈地区の2ヶ所

のみです。今現在はアクセサリーや宝飾品への加工が主目的の採掘事業であることから、良質の琥珀が多く産出する場所を選定ながら採掘している事に起因しています。採掘方法は坑道掘りが中心ですが、限られた場所では露天採掘も行っています。琥珀の採掘に際しては炭質頁岩や砂岩からなる母岩の粗削り段階に削岩機を使用しますが、後は琥珀を損傷ないようにハンマーとタガネ類による手掘り作業になっています。昨年の2ヶ所分併せた年間採掘量は推定で約0.5トン余りで、多い年でも年間1トン前後の採掘量で推移しています。

SASAKI Kazuhisa (2009) : The amber mining experience fair on Geology Day.

<受付:2008年11月4日>